

単元(題材名)	1. 整数と小数	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 整数，小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることがわかる。
	○ 整数や小数を10倍，100倍，1000倍， $1/10$ ， $1/100$ ， $1/1000$ にしたときの小数点の移動のしかたがわかる。
	○ 小数も0～9までの10個の数字と小数点を使って表せることがわかる。
思・判・表	○ 整数も小数も同じ十進数として，統合的に捉えることができる。
	○ 0～9の10個の数字と小数点を使って，いろいろな大きさの小数を考え，表すことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数点の移動によって，いろいろな大きさの数ができることを理解し，整数や小数でいろいろな大きさの数をつくろうとする。

【評価規準】

知・技	○ 整数や小数を10倍，100倍，1000倍， $1/10$ ， $1/100$ ， $1/1000$ にしたときの小数点の移動のしかたを理解している。
	○ 整数，小数はともに十進位取り記数法のしくみで表されていることを理解している。
	○ 小数も0から9までの10個の数字と小数点を使って表せることを理解している。
思・判・表	○ 小数を10倍，100倍，1000倍， $1/10$ ， $1/100$ ， $1/1000$ することを小数点の移動と捉え，計算の結果を考えることができる。
	○ 0～9の10個の数字と小数点を使って，いろいろな大きさの小数を考え，表している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数点の移動によって，いろいろな大きさの数をつくっている。
	○ 0～9までの10個の数字と小数点を使って，いろいろな大きさの数を進んでつくっている。

単元(題材名)	2. 直方体や立方体の体積	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 体積の用語とその意味，単位 cm^3 を知り，それを用いて体積を表すことができる。
	○ 直方体や立方体の求積公式を理解し，体積を求めることができる。
	○ 大きな体積の単位 m^3 を知り，適切に単位を選んで体積を求めることができる。
	○ 体積の単位に関連して， $1\text{ L} = 1000\text{ cm}^3$ ， $1\text{ mL} = 1\text{ cm}^3$ ， $1\text{ m}^3 = 1000\text{ L}$ の関係がわかる。
	○ 内のり，容積の用語とその意味を知り，容積を求めることができる。
思・判・表	○ 直方体や立方体の体積を求める公式をつくることができる。
	○ 複合図形の体積の求め方について，直方体や立方体に分割するなどして，工夫して考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 体積の意味や単位を知り，図形の体積の求め方や身の回りにあるものの体積を考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 体積の用語とその意味，単位 cm^3 を理解している。
	○ 直方体や立方体の体積を求積公式を適用して求めている。
	○ 大きな体積の単位 m^3 を知り，適切に単位を選んで体積を求めている。
	○ $1\text{ L} = 1000\text{ cm}^3$ の関係を理解し， $1\text{ mL} = 1\text{ cm}^3$ ， $1\text{ m}^3 = 1000\text{ L}$ の関係を理解している。
	○ 内のり，容積の用語とその意味を理解し，容積を求めている。
思・判・表	○ 直方体や立方体の求積公式を，説明している。
	○ 複合図形の体積の求め方を，工夫して考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 1 cm^3 の何個分とみて，直方体の体積の表し方を進んで考えている。
	○ 身の回りのいろいろなものの体積を進んで調べている。

単元(題材名)	3. 比例	
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係	

【到達目標】

知・技	○ 比例の用語とその定義がわかる。
	○ 比例する2つの量のもう一方の値を求めることができる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量が比例関係にあるかどうかを、表などに表して判断することができる。
	○ 比例関係を数直線図を使って、問題解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 伴って変わる2つの数量の関係をもとに、数値を変えて変化や対応の特徴を考察しようとする。

【評価規準】

知・技	○ 比例の用語とその定義を理解している。
	○ 比例関係を式に表し、一方の量に対応するもう一方の量を求めている。
思・判・表	○ 比例関係にあるかどうかを判断し、比例関係を表や図などに表している。
	○ 比例関係を数直線図を使って、式の立て方や答えの求め方を考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 比例する2つの数量の関係に関心を持ち、いろいろな見方で調べている。

単元(題材名)	4. 小数のかけ算	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。
	○ 乗数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数×小数の乗法のしくみを理解し、積の小数点の位置を定めることができる。
	○ 小数の乗法について、乗数の大きさから、被乗数と積の大小関係を判断することができる。
	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることがわかる。
	○ 小数の場合でも、乗法の交換法則や分配法則、結合法則が成り立つことがわかる。
思・判・表	○ 乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。
	○ 小数の乗法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の乗法を考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 小数をかける意味を理解している。
	○ 乗数が小数の場合の計算原理や計算方法、筆算のしかたを理解している。
	○ 乗数が小数の場合について、筆算で計算している。
	○ 小数×小数の場合について、筆算で計算している。
	○ 乗数の大きさから、積と被乗数の大小関係の判断ができることを理解している。
	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式が使えることを理解している。
	○ 辺の長さが小数の場合でも、面積や体積の求積公式を使って、面積や体積を求めている。
	○ 小数の場合でも、計算のきまりが成り立つことを理解している。
	○ 小数の場合でも、計算のきまりを使って工夫して計算している。
思・判・表	○ 乗数が小数の乗法の式になる根拠を、数直線図を用いて考え、説明している。
	○ 乗数が小数の場合の計算方法を、小数のしくみや計算のきまりなどをもとに考え、説明している。
	○ 小数の乗法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 乗数が小数の乗法について、整数の乗法と関連付けて計算方法を考え、説明している。
	○ 計算方法について具体例に置き換えて考えたり、図などに表したりして考えている。
	○ 小数が日常生活で多く使われていることに気づき、小数の乗法の計算を進んで練習している。

単元(題材名)	5. 小数のわり算	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、立式することができる。
	○ 除数が小数の場合の計算原理や計算方法を理解し、筆算で計算することができる。
	○ 小数の除法について、除数の大きさから、被除数と商の大小関係を判断することができる。
	○ 小数÷小数で、あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めることができる。
	○ 小数÷小数で、商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求めることができる。
思・判・表	○ 除数が小数の場合でも除法が用いられることを数直線図などを用いて理解し、整数と同じ考え方で捉えることができる。
	○ 小数の除法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り、それを活用したり関連付けたりして小数の除法を考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 小数でわる意味を理解している。
	○ 除数が小数の場合の計算原理や計算方法、筆算のしかたを理解している。
	○ 除数が小数の場合について、筆算で計算している。
	○ 除数の大きさから、商と被除数の大小関係の判断ができることを理解している。
	○ わりきれるまでわり進む筆算のしかたを理解し、計算している。
	○ あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求めている。
	○ 商を四捨五入して、上から2けたまでの概数で求めている。
思・判・表	○ 除数が小数の除法の式になる根拠を、数直線図を用いて考え、説明している。
	○ 除数が小数の場合の計算方法を、小数のしくみや計算のきまりなどをもとに考え、説明している。
	○ 小数の除法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 除数が小数の場合でも、整数の除法と関連付けて計算方法を考え、説明している。
	○ 計算方法について具体例に置き換えて考えたり、図などに表したりして考えている。
	○ 小数が日常生活で多く使われていることに気づき、小数の除法の計算を進んで練習している。

単元(題材名)	小数の倍	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 小数倍を理解し，除法を使って小数倍を求めることができる。
	○ ある数量の小数倍の大きさを求めるときには，小数の乗法が用いられることがわかる。
	○ 小数倍を理解し，除法を使って，もとにする量を求めることができる。
思・判・表	○ 小数倍は，もとにする量を1としたときの比べられる量の大きさを表していることがわかる。
	○ もとにする量，比べられる量，小数倍の関係をもとに，問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習事項や生活などの経験を振り返り，それを活用したり関連付けたりして小数倍について考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 2つの数量を比較し，小数の除法を用いて，小数倍を求めている。
	○ もとにする量をもとに小数の乗法を用いて，小数倍にあたる比べられる量を求めている。
	○ もとにする量×小数倍＝比べられる量の関係を，もとにする量を□として，□を用いた式に表し，比べられる量÷小数倍の計算から，もとにする量を求めている。
思・判・表	○ 小数倍の意味について，もとにする量を1としたときの比べられる量の大きさを表していることが説明できる。
	○ 小数倍を利用した問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 小数倍を用いる計算場面について具体例に置き換えて考えたり，図などに表したりして考えている。
	○ 小数倍が日常生活で多く使われていることに気づき，小数の乗法や除法を活かそうしている。

単元(題材名)	6. 合同な図形	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 図形の合同の意味がわかる。
	○ 合同な図形の対応関係を理解し，合同かどうかの判別ができる。
	○ 合同な三角形の3つのかき方がわかる。
	○ 合同な三角形や四角形をかくことができる。
思・判・表	○ 平行四辺形やひし形などの四角形に対角線をひいてできる三角形について，合同かどうか調べることができる。
	○ 合同な三角形の作図のしかたを，作図に必要な要素をもとに説明することができる。
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに，合同な四角形の作図のしかたを考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 2つの図形が合同であるかどうかの条件をみつけようとするを通して，図形の性質を考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 図形の合同の意味を理解している。
	○ 合同な2つの図形について，対応する辺，対応する角，対応する頂点を理解している。
	○ 対応する辺の長さや角の大きさから，合同かどうかを判別している。
	○ 合同な三角形のかき方を理解し，合同な三角形をかいている。
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに，合同な四角形をかいている。
思・判・表	○ 平行四辺形やひし形などの四角形に対角線をひいてできる三角形について，合同かどうかを説明している。
	○ 合同な三角形の作図のしかたを，作図に必要な要素をもとに，説明している。
	○ 合同な三角形の作図のしかたをもとに，合同な四角形の作図のしかたを考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 身の回りにある合同な図形をみつけている。
	○ 合同な図形の性質について，友だちと話し合っている。

単元(題材名)	7. 図形の角	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 三角形，四角形の内角の和が，それぞれ 180° ， 360° であることがわかる。
	○ 五角形，六角形や多角形の用語とその定義がわかる。
	○ 内角の和を用いて，図形の示されていない1つの角の大きさを計算で求めることができる。
	○ 多角形を三角形に分けて，内角の和を求めることができる。
思・判・表	○ 三角形の内角の和から，四角形や多角形の内角の和の求め方を考えることができる。
	○ 同じ形の四角形の敷き詰めを通して，敷き詰められる理由を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 基本的な図形の性質をもとに多角形の内角の和について，筋道立てて考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 三角形の内角の和が 180° であることを理解している。
	○ 四角形の内角の和が 360° であることを理解している。
	○ 五角形，六角形や多角形の用語と定義を理解している。
	○ 内角の和を用いて，三角形，四角形の示されていない1つの角の大きさを計算で求めることができる。
	○ 多角形を三角形に分けて，内角の和を求めることができる。
思・判・表	○ 四角形の内角の和が 360° であることを筋道立てて説明している。
	○ 多角形を三角形に分けて考え，その内角の和の求め方を説明している。
	○ 同じ形の四角形の敷き詰めを通して，敷き詰められる理由を説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 三角形や四角形などの内角の和をいろいろな方法で調べ，説明している。
	○ 四角形の内角の和の求め方を考え，考えたことを友だちと話し合っている。

単元(題材名)	8. 偶数と奇数, 倍数と約数	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 偶数, 奇数の用語とその意味がわかり, 偶数と奇数に類別することができる。
	○ 倍数, 公倍数, 最小公倍数の用語とその意味や求め方がわかる。
	○ 約数, 公約数, 最大公約数の用語とその意味や求め方がわかる。
思・判・表	○ 偶数, 奇数を活用して, 問題を解決することができる。
	○ 公倍数, 最小公倍数の考え方を活用して, 問題を解決することができる。
	○ 公約数, 最大公約数の考え方を活用して, 問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 倍数, 公倍数, 最小公倍数や約数, 公約数, 最大公約数が, 日常生活でどう利用できるかを考えたり, 調べたりする。

【評価規準】

知・技	○ 偶数, 奇数の用語とその意味を理解している。
	○ 倍数, 公倍数, 最小公倍数の用語とその意味を理解している。
	○ 公倍数の手際よい見つけ方を理解し, 公倍数, 最小公倍数を求めている。
	○ 約数, 公約数, 最大公約数の用語とその意味を理解している。
	○ 公約数の手際よい見つけ方を理解し, 公約数, 最大公約数を求めている。
思・判・表	○ 整数を2でわったときのあまりに着目して分類している。
	○ 公倍数, 公約数の手際よい見つけ方を考え, 説明している。
	○ 公倍数, 最小公倍数の考え方を活用して, 問題を解決している。
	○ 公約数, 最大公約数の考え方を活用して, 問題を解決している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 倍数, 公倍数, 最小公倍数に関心を持ち, 進んでそれらを調べている。
	○ 約数, 公約数, 最大公約数に関心を持ち, 進んでそれらを調べている。

単元(題材名)	9. 分数と小数，整数の関係	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 整数どうしの除法の商は，分数を用いて表すことができることがわかる。
	○ 分数倍の意味を理解し，分数を用いて何倍かを表すことができることがわかる。
	○ いろいろな分数を小数で表す方法がわかる。また，小数できちんと表せない分数があることがわかる。
	○ 小数や整数はどんな数でも分数で表すことができることがわかる。
思・判・表	○ 整数どうしの除法の商を分数で表すとき，その大きさを筋道立てて考えることができる。
	○ 分数倍を，整数倍や小数倍と同じように考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数と小数，整数の関係から，分数の表す意味について考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 整数どうしの除法の商を分数を用いて表している。
	○ 分数を用いて何倍かを表している。
	○ いろいろな分数を小数で表している。
	○ 小数や整数を分数で表している。
思・判・表	○ 整数どうしの除法の商を分数で表すとき，その大きさを筋道立てて考え，説明している。
	○ 分数倍を，整数倍や小数倍と同じように考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数と小数，整数の関係に関心を持ち，進んで小数，整数を分数で表したり，分数を小数で表したりしている。

単元(題材名)	10. 分数のたし算とひき算	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことがわかる。
	○ 通分、約分の用語とその意味がわかる。
	○ 大きさの等しい分数をつくったり、分数の通分、約分をすることができる。
	○ 通分のしかたを知り、異分母分数の大小比較をすることができる。
	○ 異分母分数の加法、減法の計算をすることができる。
	○ 分数と小数が混じった加法、減法の計算をすることができる。
	○ 分数を使って時間を表すことができる。
思・判・表	○ 大きさの等しい分数のきまりを活用して、通分する方法を考えることができる。
	○ 異分母分数の加法、減法の計算は、同分母にすれば既習の計算と同じようにできると考えることができる。
	○ 分数と小数が混じった計算では、小数を分数にそろえれば計算できると考えることができる。
	○ 分数の加法や減法を使って、適用問題を解くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 分数の意味や表し方から、分数がどう利用されているか調べたり、どう活用できるか考えようとしたりする。

【評価規準】

知・技	○ 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても大きさは変わらないことを理解している。
	○ 通分の用語とその意味や方法を知り、異分母分数の大小比較をしている。
	○ 通分する際は、それぞれの分母の最小公倍数を分母にすることを理解している。
	○ 約分の用語とその意味や方法を知り、約分をしている。
	○ 異分母分数の加法、減法の計算をしている。
	○ 異分母分数の3口の計算をしている。
	○ 帯分数の加減法で、くり上がりあり、くり下がりありの計算をしている。
	○ 分数と小数が混じった加法、減法の計算をしている。
	○ 分数を使って時間を表している。
思・判・表	○ 大きさの等しい分数のきまりを活用して、通分する方法を考え、説明している。
	○ 異分母分数の加法、減法の計算は、同分母にすれば既習の計算と同じようにできると考え、説明している。
	○ 分数と小数が混じった計算では、小数を分数にそろえれば計算できると考え、説明している。
	○ 分数の加法や減法を使って、適用問題を解いている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 大きさの等しい分数には、どんなきまりがあるか進んで調べている。
	○ 異分母分数の加法、減法の計算のしかたを考え、わかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	11. 平均	
主領域／領域／内容の区分	D データの活用	

【到達目標】

知・技	○ 平均の用語とその意味や求め方を理解し，平均を求めることができる。
	○ 資料の中に0がある場合の平均の求め方や，平均では分離量でも小数で表せることがわかる。
思・判・表	○ 平均の考えを活用して，いろいろな問題の解き方を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 測定した結果を平均することについて考察し，それを学習や日常生活に生かそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 平均の用語とその意味や求め方を理解している。
	○ 資料の中に0がある場合の平均の求め方を理解している。
	○ 平均では分離量でも小数で表せることを理解している。
	○ 平均から全体量を求める方法を理解している。
思・判・表	○ 平均の考えを活用して，いろいろな問題の解き方を考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 平均の意味や求め方を進んで調べるとともに，平均のよさに気づき，生活に用いる場面がないかを友だちと話し合っている。

単元(題材名)	12. 単位量あたりの大きさ	
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係	

【到達目標】

知・技	○ 混み具合を比べることを通して，単位量あたりの考え方がわかる。
	○ 単位量あたりの大きさの用語とその意味がわかる。
	○ いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。
	○ 人口密度の用語とその意味を理解し，人口密度を求めて比べることができる。
	○ 速さは単位量あたりの大きさを用いると表すことができることがわかる。
	○ 時速，分速，秒速の用語とその意味がわかる。
	○ 速さを求める公式を理解し，道のりと時間から速さを求めることができる。
	○ 道のりを求める公式を理解し，速さと時間から道のりを求めることができる。
	○ 時間を求める公式を理解し，道のりと速さから時間を求めることができる。
思・判・表	○ 人数と面積を使って混み具合を比べるとき，どちらか一方の数値を同じにしたときの，他方の量で比べればよいと考えることができる。
	○ 単位量あたりの大きさを求めて解決する問題の解き方を筋道立てて考えることができる。
	○ 速さを比べる方法を，単位量あたりの大きさの考えを使って考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 単位量あたりの大きさを用いて，比べるよさに気づき，目的に応じて比べる方法を日常生活に生かそうとする。
	○ 速さは単位量あたりの大きさの考え方にもとづいていることを知り，日常生活で速さが扱われている場面を考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 単位量あたりの大きさの意味や求め方を理解している。
	○ 人口密度の意味や求め方を理解している。
	○ 混み具合を数値化して比べている。
	○ いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べている。
	○ 人口密度を計算により求め，比べている。
	○ 速さは，単位量あたりの大きさの考え方をを使って，比べられることを理解している。
	○ 時速，分速，秒速の用語とその意味を理解している。
	○ 速さ，道のり，時間を求める公式を理解し，それぞれ計算で求めている。
思・判・表	○ 混み具合を比べるとき，どちらか一方の数値を同じにして，他方の量で比べればよいと考え，説明している。
	○ 単位量あたりの大きさを求めて解決する問題の解き方を筋道立てて考え，説明している。
	○ 速さを比べる方法を，単位量あたりの大きさの考えを使って考え，説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 単位量あたりの考えを用いると，数値化して比較できることのよさに気づき，進んで活用している。
	○ 速さは単位量あたりの大きさの考え方にもとづいていることを知り，生活で速さが扱われている場面を考えている。

単元(題材名)	13. 四角形と三角形の面積	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の面積は，既習の図形に等積変形等して求められることがわかる。
	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の求積公式の意味を理解し，求積公式を使って面積を求めることができる。
	○ 平行四辺形，三角形，台形の底辺，高さ，上底，下底の用語とその意味がわかる。
	○ 高さが図形の内部にとれない平行四辺形や三角形の面積の求め方がわかる。
	○ 三角形の底辺を一定にして高さを変えていくとき，面積は高さに比例していることがわかる。
思・判・表	○ 平行四辺形，三角形，台形及びひし形の面積の求め方を，既習の図形に等積変形等して説明することができる。
	○ 平行四辺形，三角形の面積の求め方を活用して，面積の問題を解決することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ いろいろな平面図形について，既習の図形の面積の求め方と関連付けて考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の等積変形や倍積変形の意味を理解している。
	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の求積公式の意味を理解している。
	○ 平行四辺形，三角形，台形の底辺，高さ，上底，下底の用語の意味を理解している。
	○ 平行四辺形，三角形，台形，ひし形の面積を求積公式を使って求めている。
	○ 三角形の底辺を一定にして高さを変えていくとき，面積は高さに比例していることを理解している。
思・判・表	○ 平行四辺形，三角形などの面積の求め方を考え，既習の図形に等積変形等して説明している。
	○ 平行四辺形，三角形の面積の求め方を活用して，面積の問題を解決している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 既習の図形の面積の求め方をもとにして，平行四辺形，三角形，台形及びひし形の求め方を考え，その考えをわかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	14. 割合	
主領域／領域／内容の区分	C 変化と関係	

【到達目標】

知・技	○ 割合の用語とその意味がわかる。
	○ パーセント（％），百分率の用語やその意味，表し方がわかる。
	○ 割合，比べられる量，もとにする量の求め方がわかる。
	○ 百分率を求めることができる。
	○ 割合を百分率で表したり，百分率で表された割合を小数で表したりすることができる。
	○ 歩合の用語とその意味，表し方がわかる。
思・判・表	○ 数量を比較する場合，全体と部分の関係を捉えて比べ方を考えることができる。
	○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係をもとに，比べられる量，もとにする量の求め方を考えることができる。
	○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係をもとに，問題解決の方法を考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 割合を用いた比べ方のよさに気づき，割合がどう利用されているかを考え，それを日常生活に生かそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 割合の用語とその意味を理解している。
	○ 百分率や歩合の用語やその意味，表し方を理解している。
	○ 割合，比べられる量，もとにする量の求め方を理解している。
	○ 百分率，歩合を求めている。
	○ 割合を百分率で表したり，百分率で表された割合を小数で表したりしている。
思・判・表	○ 数量を比較する場合，全体と部分の関係を捉えて比べ方を考え，説明している。
	○ 比べられる量やもとにする量の求め方を，割合を求める式や数直線をもとに考え，説明している。
	○ 割合を利用して問題を解決している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 割合，比べられる量，もとにする量の関係を，進んで図などに表して，問題解決している。
	○ 割合の考え方が生活場面に用いられていることを理解し，身の回りから探している。

単元(題材名)	15. 帯グラフと円グラフ	
主領域／領域／内容の区分	D データの活用	

【到達目標】

知・技	○ 帯グラフと円グラフの意味とそれぞれの特徴や読み方がわかる。
	○ 複数の帯グラフを並べると、割合の変化の様子が比べやすくなることがわかる。
	○ 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表すことができる。
思・判・表	○ 資料を詳しく調べるために、どのようなグラフに表すとよいかを考えることができる。
	○ 棒グラフ、折れ線グラフ、帯グラフの表し方の工夫を捉えて、資料を目的に応じたグラフに表してデータの特徴や傾向を判断できる。
	○ 結論について、多面的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 問題を解決するために資料を収集し適切なグラフを選択して判断し、その結論や問題解決の過程がどうであったか考えようとする。

【評価規準】

知・技	○ 帯グラフと円グラフの意味とそれぞれの特徴や読み方を理解している。
	○ 複数の帯グラフを並べると、割合の増減が比べやすくなることを理解している。
	○ 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表している。
思・判・表	○ 資料を詳しく調べるために、どのようなグラフに表すとよいかを考え、その理由を説明している。
	○ 目的に応じて、資料を適切なグラフに表してデータの特徴や傾向を判断している。
	○ 出した結論について、その理由を説明している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 帯グラフと円グラフを日常生活の考察に進んで用いようとしている。
	○ 目的に応じて、進んで資料を集め、分類整理をしている。
	○ 問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察している。

単元(題材名)	16. 変わり方調べ	
主領域／領域／内容の区分	A 数と計算	

【到達目標】

知・技	○ 伴って変わる2つの数量の関係を，表や式で表すことができる。
	○ 伴って変わる2つの数量について表や式に表すと，その対応や変化の特徴がつかみやすくなることがわかる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量を見だし，表や式に表すことでその対応や変化の特徴をみつけることができる。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を，表や式を用いて説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 求めたい数量に関して，それと関係のある数量を使って調べようとする。
	○ 伴って変わる2つの数量の対応や変化の特徴を見いだすために，表や式に表そうとする。

【評価規準】

知・技	○ 伴って変わる2つの数量の関係を，表や式で表すことができる。
	○ 伴って変わる2つの数量について表や式に表すと，その対応や変化の特徴がつかみやすくなることがわかる。
思・判・表	○ 伴って変わる2つの数量を見だし，表や式に表すことでその対応や変化の特徴をみつけることができる。
	○ 伴って変わる2つの数量の関係を，表や式を用いて説明することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 求めたい数量に関して，それと関係のある数量を使って調べている。
	○ 伴って変わる2つの数量の対応や変化の特徴を見いだすために，進んで表や式に表している。

単元(題材名)	17. 正多角形と円周の長さ	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 正多角形の用語を知り，その意味がわかる。
	○ 円を用いた正多角形のかき方を考え，円を用いた正六角形の工夫したかき方がわかる。
	○ 正多角形をかくことができる。
	○ 円周や円周率の用語とその意味がわかる。
	○ 円周の長さを求める公式を理解し，直径や半径の長さから円周の長さを求めることができる。
	○ 直径の長さと円周の長さが比例することを理解し，比例関係をもとに円周の長さを求めることができる。
思・判・表	○ 円周の長さを求める式を使って，問題解決をすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 正多角形と円について，それぞれの図形を構成する要素に着目し，図形の性質を見いだそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 正多角形の用語を知り，その意味を理解している。
	○ 円を使って，正多角形をかいている。
	○ 円周や円周率の用語とその意味を理解している。
	○ 円周の長さを求める公式を理解し，直径や半径の長さから円周の長さを求めている。
	○ 直径の長さと円周の長さが比例することを理解し，比例関係をもとに円周の長さを求めている。
思・判・表	○ 円周の長さを求める式を使って，問題を解決している。
主体的に学習に取り組む態度	○ 正多角形と円の性質から，円を使って正多角形をかく方法を考えている。
	○ 円周の長さを求める式を使って，問題解決の方法を考え，わかりやすく説明する工夫をしている。

単元(題材名)	18. 角柱と円柱	
主領域／領域／内容の区分	B 図形	

【到達目標】

知・技	○ 角柱，円柱の定義やその特徴がわかる。
	○ 角柱，円柱の底面，側面，高さの用語とそれらの意味がわかる。
	○ 三角柱，四角柱，五角柱，六角柱の側面，頂点，辺の数を調べ，数のきまりがわかる。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図の見方がわかる。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図のかき方を理解して，それらをかくことができる。
思・判・表	○ 角柱や円柱の辺や面のつながりや位置関係に着目して，見取図や展開図のかき方を考えることができる。
	○ 角柱の底面は三角形，四角形などがあり，側面はすべて長方形か正方形であることに着目し，角柱の名前を見いだすことができる。
	○ 角柱について，側面，頂点，辺の数をそれぞれ調べ，それらの関係についてまとめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○ 角柱と円柱について，それぞれの図形を構成する要素に着目し，図形の性質を見いだそうとする。

【評価規準】

知・技	○ 角柱，円柱の定義やその特徴を理解している。
	○ 角柱，円柱の底面，側面，高さの用語とそれらの意味を理解している。
	○ 角柱の側面，頂点，辺の数を調べ，数のきまりを理解している。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図を読んだり，かいたりしている。
	○ 角柱や円柱の見取図や展開図をかいて，辺や面のつながりや位置関係を調べている。
思・判・表	○ 角柱の底面や側面の形に着目し，角柱の名前がわかり，その説明をしている。
	○ 角柱について，側面，頂点，辺の数をそれぞれ調べ，それらの関係についてまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 角柱や円柱の構成要素に着目して，角柱や円柱の特徴を進んで調べている。
	○ 角柱や円柱の展開図をかき，それを組み立てて，角柱や円柱の性質を調べている。

単元(題材名)	5 年のふくしゅう	
主領域／領域／内容の区分	A～D	

【到達目標】

知・技	○ 既習内容の理解を確認する。
思・判・表	
主体的に学習に取り組む態度	

【評価規準】

知・技	○ 既習内容について解決の仕方を理解し、問題を解決することができる。
思・判・表	
主体的に学習に取り組む態度	